


令和2年度

# 営業報告

## 貸借対照表

## 損益計算書

 株式会社 平成大野屋

# 営業報告書

自 令和 2年 4月 1日

至 令和 3年 3月31日

## I 営業の概況

### 1 営業の経過について

#### (1) 一般の概況

大野市のまちなか観光の入込客数は、関西や中京方面、近県からの観光客の割合が多く、主に「天空の城 越前大野城」を目的とした観光客が訪れていますが、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少し、極めて厳しい状況にあります。GoToトラベルキャンペーンや紅葉の季節に観光客の回復傾向が見られたものの、その数は、前年の9万6千4百人から4万7千1人と半減しました。

上半期につきましては、ゴールデンウィークなどの大型連休時も「緊急事態宣言」により営業時間の短縮や休業措置が要請されたことなどにより、まちなか観光の入込客数は減少しました。以後についても、8月の猛暑に加え、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐために「おおの城まつり」が中止になるなどの影響を受け、関西や中京方面からのバスツアー客がなくなりました。また、近県からのグループや家族連れなどの来客も減少し、当社の売上げは、「結楽座」、「はいから茶屋」とともに減少しました。

下半期は、新米や里芋などの農産物の販売に積極的に取り組む中、10月、11月にはGoToトラベルキャンペーンに紅葉の時期が重なり、団体客や個人観光客が増加しました。11月には越前大野城が天空の城になることがテレビや新聞などのメディアにも取上げられ、観光客は昨年並みまで戻りましたが、「結楽座」や「はいから茶屋」の売上げは伸びませんでした。また、例年まちなか観光の入込客数が減少する冬場において、1月は大雪や新型コロナウイルス感染症拡大の影響により客足が激減したことから、「はいから茶屋」を2月4日から28日まで臨時休業したことに加え、例年「平蔵」で実施される「春を彩る越前おおのひな祭り」も中止となりました。これらのことから、下半期の売上げにつきましても、前年を下回りました。

販路開拓、特産品などの情報発信事業につきましては、例年どおり、大野市の特産品カタログ「結ギフト」や通販用のカタログを得意先などに送付し大野市のPRと販路開拓を行いました。しかしながら、例年参加する八尾河内音頭まつり、郡上市食の祭典、みなと区民まつり、大阪市での三県連携物産展、古河よかんべまつりなどが新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、物産販売を通じての情報発信を行うことができませんでした。

「洋館」や「平蔵」におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響で講演やコンサート、「春を彩る越前おおのひな祭り」が開催中止となりましたが、「二階蔵」では人数制

限を行うことで折り紙や木工の体験学習などを実施したほか、鉄道ジオラマや作品展示では、新型コロナウイルス感染症の対策を十分に行い、安心して見学していただけるように努めました。また、藩主隠居所などの結ステーションエリアにおきましては、大野市民が自由に出店できる多目的販売スペースを活用し、平成大野屋がより多くの人々に利用される観光拠点となるよう努めました。

## (2) 部門別の状況

### <物販部門>

販売部門の総売上高は、前年より20,696千円減の43,834千円となりました。テレビや新聞、旅行雑誌などでのPR、さらに「天空の城 越前大野城」の効果はあるものの、お城やまちなみ散策に訪れる観光客が春先から夏にかけて減少したことや新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、4月6日から5月20日まで臨時休業せざるを得なかったことが大きな原因です。

来客が最も期待できる紅葉時期の天候が安定したことやG・O・T・Oトラベルキャンペーンの実施により、10月、11月は、観光客も多く見られましたが、年明けの1月の大雪や新型コロナウイルス感染症拡大の影響により売上げが落ち込み、前年を下回りました。

店頭販売などの個別内訳では、店頭販売が昨年より17,303千円減の34,946千円となりました。毎月のレジデータによると、4月から9月までは前年比マイナス、10月、11月はG・O・T・Oトラベルキャンペーンの影響で持ち直したものの、それ以降は大きく持ち直すことができませんでした。また、イベント出店を除くダイレクトメールなどの店頭外販売は、主力の里芋が前年に続き不作だったことが影響し、前年より1,361千円減の8,769千円となりました。「ふくい南青山291」、「食の國 福井館」、「割烹赤坂若狭」、「岩倉市のJ A愛知北産直センター」での米や里芋などの越前おおの産特産品の販売は定着しています。

一方、イベント出店については、一昨年まで参加していた大阪府八尾市「八尾河内音頭まつり」や大阪市での「3県連携物産展」、岐阜県郡上市「食の祭典」、茨城県古河市「古河よかんべまつり」、市内の「九頭竜新緑まつり」、「九頭竜紅葉まつり」、「新そばまつり」、「越前おおのふるさと味物語」など、ほとんどのイベントが中止となり、特産品のPRと物産販売が行えず、売上げは2,032千円減の119千円となりました。

### <飲食部門>

飲食部門の総売上高は、前年より8,313千円減の9,313千円となりました。毎月の売上高は、4月から9月までは新型コロナウイルス感染症の影響で4月6日から5月20日まで臨時休業したことから落ち込みました。10月、11月は持ち直したものの、年明けの1月の雪や新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2月4日から28日までを臨時休業、「春を彩る越前おおのひな祭り」の開催が中止となるなどし、売上げは減少しました。

旅行会社やグループからの団体申し込みは年間10件あり、少数ではありますが中京や関西に加えて県内の市町からもお越しいただくことができました。喫茶部門においても、観光客の休憩場所、地元市民の憩いの場として利用いただけるよう努めました。

#### <受託部門>

大野市からの指定管理受託により、観光拠点施設「越前大野結ステーションエリア施設管理事業」の施設運営管理事業と「販路拡大情報発信事業」を行いました。

##### (越前大野結ステーションエリア施設管理部門)

指定管理者としてまちなか観光拠点施設「平成大野屋」の「洋館」「平蔵」「二階蔵」と「結ステーション」の「結楽座」「藩主隠居所」「多目的広場兼駐車場」の施設運営管理を行いました。

「洋館」と「結楽座」では観光案内や飲食サービスの提供、特産品の販売を、「平蔵」では主に大野市民の文化芸術活動の展示や遠足客の休憩の場としての受入れを、「二階蔵」では「天空の城 越前大野城」の動画・写真の展示や鉄道ジオラマの展示、体験型観光の展開による観光客の受入れを、「藩主隠居所」では観光客の静かな休憩の場としての利用促進を行い、それぞれの施設の特性を活かした管理運営に当りました。

特に「二階蔵」では、体験型観光や展示企画の取組みとして、通常の手づくり体験のほかに、大野市の「おおのまるごと満喫お得キャンペーン」、「おおのまるごと満喫お得キャンペーン冬バージョン」に参画し、市内宿泊観光客やまちなか遠足で市内を訪れる小中学生などを対象としたジオラマ作り、カゴバッグ作り、自然工作、紙工作など特別体験講座を、人数限定の予約制とするなど感染拡大防止対策を図りながら開くとともに、冬季も土曜、日曜日に実施することにより利用拡大に努めました。

そのほか「天空の城 越前大野城」の写真展や大野の観光PR動画の上映、大野の四季を表した鉄道ジオラマの改修展示も行いました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染防止対策で、4月1日から5月21日まで臨時休館したほか、「平蔵」での「春を彩る越前おおのひな祭り」、市民展示者募集、夏休み特別体験講座の中止や小中学校のまちなか遠足の中止による遠足体験講座の減少などが影響し、「二階蔵」の令和2年度の来館者数は、前年度の2万2千人から8千人の6割減となりました。

##### (販路拡大情報発信事業)

特産品の情報発信については、6月にはお中元用の夏の特産特集、9月には「越前おおのの旬」として新米と上庄里芋特集、11月にはお歳暮用の秋・冬の特産品観光情報特集の3種類のチラシを印刷し、主に都市圏の方を中心として、ダイレクトメールを送付しました。また、市民向けには、4月に、結の故郷ロゴ入りPRポロシャツの販売チラシを10,650枚印刷し、新聞折り込みにより配布しました。そのほか、ホームページとECサイトのリニューアルを行い、ウィズコロナ時代への対応として、インターネットを活用できる環境を強化しました。

## II 会社の概要 (令和3年3月31日現在)

### 1 主要な事業内容

- ◎ 大野市地場産品の販売・開拓
- ◎ 茶屋の営業
- ◎ 大野市からの受託事業 「越前大野結ステーションエリア施設管理事業」  
「販路拡大情報発信事業」

### 2 株式の状況

1	会社が発行する株式の総数	2,400株
1	発行済株式の総数	600株
1	株主数	131名
1	大株主	大野市 310株

### 3 従業員の状況

当期末現在 従業員 16名  
(社員11名、パート5名)

### 4 事業所

福井県大野市元町1番2号 ㈱平成大野屋

### 5 取締役の氏名

代表取締役	飯田	俊市郎
取締役	此下	美千雄
取締役	塗茂	ひろ美
取締役	野村	明志

### 6 監査役の氏名

監査役	林	幹雄
監査役	竹内	宗義

## 貸借対照表

令和3年3月31日現在

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
I 流動資産	29,642	I 流動負債	6,912
現金・預金	24,295	買掛金	2,310
売掛金	2,905	未払費用	3,199
棚卸資産	2,185	未払法人税等	103
仮払金	32	未払消費税等	956
その他の流動資産	225	その他の流動負債	344
II 固定資産	509	II 固定負債	0
有形固定資産	402	III 引当金	0
無形固定資産	77	負債の部合計	6,912
投資その他の資産	30	資本の部	
III 繰延資産	0	I 資本金	30,000
		II 法定準備金	0
		III 利益剰余金	△ 6,761
		繰越利益剰余金	△ 6,761
		資本の部合計	23,239
資産の部合計	30,151	負債・資本の部合計	30,151

(注記事項)

有形固定資産の減価償却累計額     2,019,073円

# 損益計算書

自 令和 2年4月 1日  
至 令和 3年3月31日

## 経常損益の部

(単位:円)

I 売上高	80,172,494
委託売上	27,136,107
物販売上	43,834,144
飲食売上	9,312,629
その他売上	△ 110,386
II 売上原価	35,619,763
売上総利益	44,552,731
III 販売費及び一般管理費	49,397,899
営業利益	△ 4,845,168
IV 営業外収益	4,943,407
V 営業外費用	31,127
経常利益	67,112

## 特別損益の部

I 特別利益	0
II 特別損失	0
税引前当期利益	67,112
法人税・住民税及び事業税	206,000
当期純利益	△ 138,888

## 株主資本等変動計算書

(単位 円)

自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日

	株主資本				純資産の部
	資本金	利益剰余金		株主資本	
		その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金		
前期末残高	30,000,000	△ 6,622,463	△ 6,622,463	23,377,537	23,377,537
当期変動額					
当期純損益金		△ 138,888	△ 138,888	△ 138,888	△ 138,888
当期変動額合計		△ 138,888	△ 138,888	△ 138,888	△ 138,888
当期末残高	30,000,000	△ 6,761,351	△ 6,761,351	23,238,649	23,238,649



# 監 査 報 告 書


株式会社 平成大野屋

代表取締役 南 谷 憲 児 殿


株式会社平成大野屋の令和2年度の事業ならびに収支決算に関し、  
その内容および関係書類全般にわたり厳正に監査した結果、事業・  
収支とも適正に処理されていることを認めます。

令和3年 5月 7日

監査役

林 幹雄 

監査役

竹内 宗義 

令和2年度 比較損益計算書

(単位円・税別)

勘定科目	令和元年度実績	令和2年度実績
飲食売上	17,625,963	9,312,629
物販売上	64,530,485	43,834,144
事業委託売上	3,838,442	3,212,460
施設管理売上	23,731,196	23,923,647
その他売上	△ 112,647	△ 110,386
売上高	109,613,439	80,172,494
売上原価	53,601,179	35,619,763
売上総利益	56,012,260	44,552,731
粗利益率	51%	56%
役員報酬	0	0
給与手当	29,226,717	26,644,053
雑給	430,838	239,870
法定福利費	3,759,326	3,633,094
福利厚生費	778,747	687,196
運賃	49,282	50,105
広告宣伝費	1,949,181	2,849,622
販売促進費	34,685	2,970
交際費	1,364	0
貸倒損失	0	1,852
旅費交通費	259,185	96,189
通信費	594,384	563,513
消耗品費	1,536,450	993,179
事務用品費	333,228	299,743
図書新聞費	50,892	55,152
研修費	59,519	5,456
水道光熱費	5,747,019	4,752,711
保険料	228,080	291,280
修繕費	910,482	941,073
租税公課	92,302	89,695
リース料	1,534,821	1,527,156
支払手数料	810,244	677,111
容器包装費	635,337	177,390
減価償却費	873,733	384,696
清掃費	1,322,289	1,105,331
管理委託費	1,419,457	1,411,300
諸会費	124,750	81,250
顧問料	787,000	945,200
雑費	1,103,222	891,712
販売費及び一般管理費合計	54,652,534	49,397,899
差引営業利益	1,359,726	△ 4,845,168
【営業外収入】		
受取利息	250	245
受取配当金	1,200	1,200
雑収入	580,724	4,941,962
【営業外費用】		
雑損失		31,127
差引経常利益	1,941,900	67,112
【特別収入】		
【特別損失】		
固定資産除却損	1,341	0
税引前当期利益	1,940,559	67,112
法人税・住民税	655,400	206,000
税引後当期利益	1,285,159	△ 138,888

## 今後の取組み

### 〈総合展望〉

新型コロナウイルス感染症は変異株の感染が急拡大し、世界中で猛威を振るっています。日本では、本年4月25日に東京、大阪、京都、兵庫の4都府県を対象とした「緊急事態宣言」が発令され、さらに、5月12日からは、愛知、福岡の2県が加わりました。対象地域となっていない県でも感染状況の悪化が進み、各地で「第四波」が猛威を振るっており、国民の生活及び経済活動に大きな影響を及ぼしています。まずは、ワクチン接種を進め感染抑止に全力を挙げるとともに、経済へのダメージを最小限に抑え、困っている企業・人への支援など更なる追加経済対策が求められています。

日本の景気は、昨秋のG・O・T・Oトラベルキャンペーンの影響などから、緩やかな回復傾向で推移していましたが、緊急事態宣言の再発令などから一時的にマイナス成長になると予想されます。緊急事態宣言解除後は、G・O・T・Oトラベルキャンペーンが再開し、需要回復が期待されますが、今年度中は、新型コロナウイルス感染症の収束がなされないことが予想される中で、一定の経済活動の抑制を余儀なくされるとみられています。

福井県の景気も厳しい環境になっており、4月22日に福井県独自の「緊急事態宣言」が発令されるなど、先行きが見通せない状況となっています。売上げ・受注の減少や従業員への感染の不安など社会や景気へのマイナスの影響が懸念されます。

個人消費も、一部で厳しい状況が続いており、飲食料品のスーパーやドラッグストア、ホームセンターでは消費が持ち直す傾向がみられるものの、観光関係は回復の兆しが見えず、感染拡大の鎮静化とともに、G・O・T・Oトラベルキャンペーンの再開が待たれるところです。まちなかや商店街は人もまばらで、飲食や物販の売上げの減少や、新型コロナウイルス感染症拡大による営業時間短縮や休業が危惧されます。

このような中、大野市では、4月22日に、「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」の核となる施設である道の駅「越前おおの 荒島の郷」がオープンしました。

また、中部縦貫自動車道大野・油坂道路は、令和8年春に全線開通する見通しであることが公表されました。こうしたことにより、今後、大野市にとっては、観光産業を中心とした様々な分野でチャンスが生まれ、大きな変革が期待される時代となります。

当社は、平成11年に設立し、本年6月で22年目を迎えます。この20年余りの間に、平成17年の旧和泉村との合併を契機に、第三セクター「株式会社 昇竜」が加わり、平成21年には、農業分野において、大野市農林業の発展と地域社会経済の活性化を目的とした第三セクター「一般財団法人 越前おおの農林楽舎」が設立されました。

また、民間事業者の中でも、複数の観光施設を運営する事業者が現れ、地場産品を

全国にPRし、交流を生む場を創造するプレイヤーが生まれてきています。

当社としましては、設立当初よりこれまで、地場産良品を全国に向けて販売すること、大野ファンと市民の交流の場を創出すること、地元と共に栄えることを目指す第三セクターの役割を果たすことを経営方針として運営を行い、その役割を果たしてまいりましたが、このような昨今の社会情勢の変化を受け、今後の当社が担う役割について改めて見直すことが求められています。

本年度におきましては、民でできることは民で行うことが原則とされる市の考え方を踏まえたうえで、第三セクターとしての当社の在り方や果たすべき役割について取締役会で協議するとともに、様々な方々からもご意見をいただきながら検討を行い、株主の皆様にも、今後の運営の方向性をお示しできるような年にいたします。

また、具体的な取組みといたしましては、引き続き、市が掲げるまちづくりの目標を達成するための各種取組を進めます。

市では、「道の駅の開業に伴って来られた来訪者が、越前大野城や博物館などにも来館し、まちなかの主要スポットを歩いて楽しく観光することや、まちなか遠足で地下水や湧水文化を総合的に学べる『越前おおの水のがっこう』の利活用により、より多くの方々に長く滞在していただくために県や関係市町との広域連携によるPR活動を行っていききたい。」また、「中部縦貫自動車道の県内全線開通や北陸新幹線敦賀開業を見据えた各種施策や事業を展開し、まちなか観光の更なる誘客に努め、交流人口の増加と観光事業者の稼ぐ力を引き出していききたい。」としています。

当社としては、大野市に来られる方々のため、日々、社員教育を行い観光知識やコミュニケーション能力を向上させ、観光客に「越前おおの」の魅力を紹介し、飲食の提供や特産品等の売上げを伸ばせるよう努めます。

また、県内外で開催される各種イベントが新型コロナウイルス感染症の影響で中止または縮小を余儀なくされておりますが、出店の機会があれば、越前大野の地域情報を紹介する中で、大野の美味しい米・里芋などの農産物をはじめ、清らかな地下水で作られた地酒、発酵食品などの地域特産品の販売及び情報発信を行います。

さらに、リニューアルしたECサイトを活用した「結楽座」のインターネット販売では、観光客の少ない時期の売上減少を補うため、コロナ禍で直接店舗に来られないお客様への販売を強化し、販売の充実を図り、新たな顧客を確保することによる売上げ増を目指します。

また、今年度におきましても、観光客の誘致を進める中では、お客様や従業員の新型コロナウイルス感染が心配されます。感染拡大防止策としましては、昨年度以上に「うつさない、うつらない」を基本として、①発熱者の施設への入場防止 ②3つの「密」（密閉・密集・密接）と飛沫感染の防止 ③接触感染の防止 ④移動時における感染の防止等の対策を講じて営業を行います。

従業員に対しましては、常にマスクの着用、手洗いの励行、朝礼における検温や感染防止の確認などを徹底します。

感染防止機器の設置では、手指アルコール消毒器、加湿器、検温器、自動検温器、

飛沫防止アクリルパネル、小型オゾン除菌・消毒機など必要な機器を設置して対応します。

#### 〈物販・飲食部門〉

リニューアルしたECサイトを活用し、結楽座のインターネット販売を推進します。新しいECサイトでは、スマートフォンやタブレットからもショッピングでき、クレジット決済も出来るようになったため、これまで以上に魅力ある商品をお客様に紹介することができると思っています。

「結楽座」の店舗販売においても、これまで同様、適宜、大野の特産品や品揃えの充実を図るとともに、「はいから茶屋」においては、心のこもったおもてなしと安全で安心な大野産食材にこだわった料理を心がけ、マイタケやそば、山菜など、大野の特色を活かした食事の提供を継続します。

#### 〈受託部門〉

##### 施設管理部門

昨年度と同様に、指定管理者として観光拠点施設の「洋館」「平蔵」「二階蔵」「結楽座」「藩主隠居所」「結ステーション」などの施設を総括して、「越前おおの結ステーションエリア施設」として引き続き指定管理を受託します。

新型コロナウイルス感染症の収束状況を見極めながら、大野市の観光発展に寄与できるよう観光客に地域情報や観光情報の提供、各種の企画展、結楽座ワゴン市、イベント開催など市民の活動拠点としての利用促進に努めていきます。

「二階蔵」では、市民の作品展や大野の観光地を模造した鉄道ジオラマ展示の更新に努めながら、特色ある手作り体験講座を設け、必要に応じて冬期間の土曜、日曜日にも体験講座を開設し、集客を図ります。

また、施設内の整理整頓、駐車場や多目的広場の清掃、樹木や芝生、花壇の手入れを順次効率的に行い、水仙など草花や花桃の植栽を進め清潔で花のある魅力的なエリアを目指すとともに、新型コロナウイルス感染防止機器を設置し、適切に管理運営を遂行してまいります。

##### 販路拡大情報発信事業

新型コロナウイルス感染症の収束状況を見極めながら、昨年に引き続き、「まちなか散策」や「天空の城 越前大野城」など、大野の魅力を活かした観光誘客PRを行う中で情報発信をするほか、今年度オープンした道の駅「越前おおの 荒島の郷」と連携した取組みを検討します。

##### ① 特産品等の情報発信

「結楽座」のインターネット販売やダイレクトメール、タブレットを利用したフェイスブックによる特産品の紹介と販売促進、出向宣伝における観光・特産品のパンフレットの配布、県外通販会員に向けての地域情報や観光情報の発信などを行います。

② 特産品・農林産物販路開拓

近隣都市や都市圏を中心に、地場産品である酒、味噌、醤油などの特産品、農林産物やそれらを活用した加工品などの情報発信や販売を積極的に行います。

③ 越前おおの特産品と都市圏とのビジネスマッチング

都市圏でのイベント出店や出向宣伝で特産品を提供してビジネスマッチング活動を展開していきます。

④ 県外アンテナショップ等を活用した越前おおの特産品の販売

愛知県岩倉市のJA愛知北産直センター岩倉店、福井県アンテナショップ「ふくい南青山291」、「食の國 福井館」での販売や市内外で開催されるイベントへの出店により、越前おおの特産品である美味しい米・里芋などをはじめ、清らかな地下水で作られた地酒、発酵食品などの宣伝販売に取り組めます。

⑤ 県外観光客誘致促進

都市圏で開催される福井県観光商談会において、観光パンフレットや特産品、お酒等を提供するなど大野の魅力発信を行い、誘客を図ります。

令和3年度数値目標

(単位:千円)税別

項 目		平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和2年度目標		令和3年度目標
		平成30年4月～ 平成31年3月	平成31年4月～ 令和2年3月	令和2年4月～ 令和3年3月	令和2年4月～ 令和3年3月	目標達成率 (%)	令和3年4月～ 令和4年3月
売上高	委託部門(①+②)	27,731	27,569	27,135	29,446	92%	28,493
	①結ステーション エリア施設管理事業	23,481	23,731	23,923	24,850		24,850
	結ステーション エリア施設管理 藩主隠居所 二階蔵						
	②販路拡大情報 発信事業等	4,250	3,838	3,212	4,596		3,643
	物販部門	67,674	64,530	43,834	51,600	85%	52,600
	飲食部門	21,223	17,626	9,312	14,100	66%	11,200
	売上値引き戻り高		△ 112	△ 110			
その他部門	0	0	0				
	計	116,628	109,613	80,171	95,146	84%	92,293
売上原価	委託部門	0	0	0	0		0
	物販部門	49,012	47,084	31,860	37,100	86%	37,800
	飲食部門	7,921	6,517	3,759	5,200	72%	4,100
	計	56,933	53,601	35,619	42,300	84%	41,900
売上総利益	委託部門	27,731	27,569	27,135	29,446	92%	28,493
	物販部門	18,662	17,364	11,884	14,500	82%	14,800
	飲食部門	13,302	11,078	5,533	8,900	62%	7,100
	その他部門	0	0	0	0		0
	計	59,695	56,012	44,552	52,846	84%	50,393
粗利益率	委託部門	100.0%	100.0%	100.0%	100%	100%	100%
	物販部門	27.6%	26.9%	27.1%	28%	96%	28%
	飲食部門	62.7%	62.9%	59.4%	63%	94%	63%
販売費・一般管理費		59,371	54,653	49,397	51,546	96%	49,293
営業利益		324	1,359	△ 4,845	1,300	-373%	1,100
営業外利益		684	582	4,943	300		500
営業外損失		0	0	31	0		0
経常利益		1,008	1,941	67	1,600	4%	1,600
特別利益		0	0	0	0		0
特別損失		0	1	0	0		0
税引前当期利益		1,008	1,940	67	1,600	4%	1,600
法人税・住民税及び事業税		373	655	206	600		600
当期利益		635	1,285	△ 139	1,000		1,000